



第474号 平成30年1月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

## 新春を迎えて

会長 林 鐘 声

謹んで初春をお慶び申し上げます。昨年のご支援、ご協力を心から感謝申し上げますとともに今年もどうぞ宜しくお願いします。

三重県津市で開催された第48回全国学校保健・学校医大会で、「就学時の健康診断マニュアル」「エイズ・性感染症に関する指導の手引」の改訂を進めているとの報告がありました。この大会のメインテーマの「輝ける未来を築く子どもたちのために ～今学校医ができること～」は、言うまでもなく私達の活動の通奏低音です。

新年に当り、私の念頭にある6つの「してみます」を述べます。

- 1：就学時検診の日程に余裕が少なく、複数校を担当する眼科、耳鼻科の事情を優先して、内科校医が参加しにくい日程が不可避免的に決定することが生じていることに対して、教育委員会に改善を求めています。就学時検診の特徴の1つは保護者同伴ですが、元々は不十分な予防接種歴を学校医が直接に説明するなどのために、教育委員会に働きかけて実現したものです。保護者とつながる最初の機会を失うのは望んでいることではありません。
- 2：運動器検診の結果集計において、京都市は質量とも全国でも貴重な仕事ができています自治体の1つです。それゆえ、運動器検診の成果と問題点を示し、今後の提言をしていくのが京都市の仕事と考えています。引き続き教育委員会、養護教員部会に協力を依頼していきます。
- 3：身長・体重成長曲線を利用した内科健康診断のなかで、学校医会が作製した「肥満とやせのマニュアル」を併わせて利用しているところですが、データ整理など少し手を加えて、より利用しやすくなるように検討していきます。
- 4：80時間を越える時間外労働の教職員に対して、

健康管理医として面談をする際に、とまどいを持つ先生がいらっしゃると思います。元よりマニュアル作りまでは考えてはいませんが、夏前までには、対応心得に当るものを文章化しておきます。

5：いじめ・不登校については、校医ニュースに有井悦子顧問から情報発信をして頂きます。同時に、精神衛生研には関連した講演会の企画を考えてもらいます。

6：学校医会が主催してきた感染症講演会から、時節柄というべきか、製薬会社が撤退しました。これからは、不定期にスポット的に講演会を企画していくこととなります。今年はムンプス難聴と考えていたところ、府医師会学校医部会の講演で取りあげて頂くことになったのは、有難いことでした。多くの先生方の参加を望みます。

以上6つの「してみます」以外にも、今年の臨時結核検診のように、「知らなかったなあ。それはあかんやろう。」ということが今年も出てくるでしょう。

最後に、今年の上四半期の主な予定を示しておきます。

\* 2月11日(日) 京都市小学校「大文字駅伝」大会

\* 2月25日(日) 第65回近医連学校医協議会総会  
琵琶湖ホテル 京都第一日赤の木崎善郎先生による「京都市学校検尿(尿糖)13年の結果と問題点」の研究発表

\* 3月8日(木) 京都府医師会学校医部会総会  
京都府耳鼻咽喉科専門医会の大島渉副会長がムンプス難聴の調査結果を中心に講演します。別に人口内耳の講演も併わせて予定しています。

\* 4月21日(土) 京都市学校医会総会  
木乃婦(竹茂楼ではありません)  
講演会に代って生田流箏の福原左和子氏の演奏を愉しんで頂きます。

## 新年の御挨拶

京都市教育長 在田正秀

新年あけましておめでとうございます。平素は、子どもたちの健康の保持増進並びに本市教育の発展に多大なる御支援・御協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、本年度より、京都市学校医会の皆様の御協力のもと、新たに臨時結核健康診断が始まりました。これまで、定期結核健康診断後に海外から転入してきた児童・生徒に対する結核健康診断は、翌年度での実施となっておりましたが、臨時結核健康診断の実施により、速やかに診断の機会を提供することが可能になりました。今年度の実施状況を踏まえ、子どもたちの健やかな成長につながる健康診断となりますよう、引き続き学校医会の先生方の御支援をいただきながら、更に充実を図ってまいります。林鐘声会長をはじめ、御尽力いただきました先生方に、この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

また、健康診断項目に追加されて2年目となる「四肢の状態の検査」につきましても、学校医会の先生方の全面的な御協力のもと、昨年度同様に無事に実施することができました。検査の結果を踏まえ、専門医受診勧奨等により、更に有用性の高い検査となるよう努めてまいりますので、引き続き御協力のほどお願い申し上げます。

今後とも、林会長を中心とする学校医会の先生方との連携をより深め、子どもたちのいのちと健康を守り、豊かな学びと育ちに向けた取組を更に推進してまいりますので、一層のお力添えを賜りますよう、よろしく願いいたします。

結びに、京都市学校医会の更なる御発展と皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

---

## 新年のご挨拶

京都府耳鼻咽喉科専門医会会長 松岡秀樹

新年あけましておめでとうございます。皆様方お健やかに新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。常日頃は学童生徒の健康にご留意いただき誠にご苦勞様でございます。

年の初めに私事で恐縮ですが、本年3月4日を持ちまして75歳となり定年となります。母校養徳小学校や高野中学校、また同級生の大勢いました養正小学校の校医を26年間勤めさせていただきました。

歴代の養護の先生には特にお世話になりましたが、他の先生方にもお世話になりました。中には健診の度毎に自らお手伝いいただいた校長先生もおられて、感謝の念に堪えません。学校も大変荒れていた時代がありましたが、その頃でも子供達が明るく楽しく学べるようにという先生方のご配慮が伝わって来て、非常に頼もしく思ったものでした。

昨年11月に最後の就学時健診を行いました。入

学予定児童たちの健診をしながら、自分自身が就学時健診を受けた時から数えて68年も経ったのかと感無量でありました。われわれの幼児期からこの方、国との戦争はなく、兵士としてそのために亡くなった方もおられません。殊に京都は日本人のノーベル賞受賞第一号、戦争や核武装に反対するパグウォッシュ会議の創設メンバーでもあった湯川秀樹博士のおられた土地でもあります。そのような土地の児童は勿論ですが日本中の児童生徒の将来が明るく平和なものであるように願われてなりません。決して「教育勅語」や「戦陣訓」を大声で唱えさせる時代にならないように祈っています。

本年が児童生徒にとりまして希望に満ちた年となりますよう願いますとともに学校医会の先生方のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。

## 謹 賀 新 年

京都府眼科医会会長 千原悦夫

先生方におかれましては輝かしい新年をお迎えられましたこととお慶び申し上げます。

新年におきましても児童生徒が健康で明るい学校生活を享受できますよう、各位におかれましては倍旧のご協力の程お願い申し上げます。

さて、近年はマスコミにおいて学校内の“いじめ”の話題が頻繁に取り上げられるようになりました。社会の仕組みやシステムに未熟な児童は、自分と違う特性を持った者に対してしばしば特別な感情を持ち、感情を制御できないことがあります。

視力の悪い児童がメガネをかけていたり、あるいは色覚異常のために他の人と違う色づかいの絵をかいたりすると、それをはやし立てたり、けなしたりする不心得者がでて、究極的に“いじめ”や不登校につながる場合があります。それぞれの児童の視力、学力、運動能力、容貌、色弁別能力などは均一ではありません。優れた能力を持った者がそれを磨き精

進することは尊敬すべきことですが、一方ではそれぞれの児童が異なった能力を持っていて、中には一部の能力が不十分な児童もいること、そして、異なった個人がともに仲良く生きていくためには「違いがあって当然」という寛容の精神が必要で、それが社会の基本であるということを分かってもらわなくては“いじめ”というものは無くならないと思います。昨今は他人を思いやる道徳の精神が廃れてきているのではないかと危惧されます。

教育現場で教えられた素養は生涯にわたる人格形成に重要な役割を果たすと思われまますので、精神的に未熟な児童にどのように伝えるかということも含めて、校医の先生方も教職員の皆様とともに力を合わせて努力する必要があるかと思えます。

新年度においては“いじめ”が減ってより明るい話題で満ち溢れることを祈念いたしたいと思えます。

---

---

## 精神保健をともに担う — そのⅡ. 不登校への手立て (1)

顧問 有井悦子

### 1. はじめに

不登校に耳馴れ、関心は薄らいでいますが、再び増加傾向にあります。認知されたので休みやすくなったからという分析とは対局的、深刻な子ども達の状況です。平成28年の文科省調査では、小中学生は13万4398人で、これには登校扱いとなる保健室、別室、放課後、フリースクール登校は含まれていません。高校生は4万8579人で、かなりの数の中退者は反映されていません。又、保育園、幼稚園児の把握は不十分ですが、不登校になって聴きとると、不登園や激しい登園しぶりの経過は顕著です。

不登校診療に約30年間携り、子どもの窮状と手立てを伝え、ともに働いていただけたらと願って来ました。ただ、医療ではevidenceが偏重され、

experienceに基く知見を伝えるのは躊躇られました。けれども「学校医の手引き」の執筆のご依頼がexperienceを伝える勇気を与えました。そして、何より、出逢ってきた患者さん達が、不登校の塗炭の苦しみの中で獲得された成果がちからとなりました。「手引き」は、頁数制約もあり、私見を加えたものの極力ガイドラインに則る方針をとりました。本稿では、私見を述べ、ご検討いただく素材をお示しいたします。

### 2. 不登校の子ども達

不登校の子どもは、“学校は行くもの”という社会通念の中で行けない葛藤を抱え、自責の念に苦しんでいます。「何とかしてやりたい」と親も苦悩し、先生方も苦慮されます。けれども、子どもの症状や

行動と、経過を聴かせてもらおうと、“不登校になってくれてよかった”，適切な表現ではないですが“これ以上登校を続けていたら、この子の心身は壊れていたかもしれない”と安堵の思いも湧きます。「これまでよく頑張ってきたね。もう、ゆっくりしい」と声をかけたくなる状態です。その言動から“困った子”とみなされがちですが、状況を知ると“とても困っている子”だと判ります。真面目すぎる、頑張りすぎる、無理すぎる子が殆んどで、だからこそ過剰と思える程葛藤を抱えます。従って、少しでも登校できるよう急がせるよりも、先ずは、十分休養し回復を保障する手立てが有用です。時には、主治医が診断書を活用して、休養を保障すると、安心して回復します。

### 3. 不登校の間に

大人は子どもを“云ってやらないと出来ない、怠惰に流れる存在”とみて助言や指示をします。“不登校はクセになる”と危惧し、“苦しいことを乗り越えて、頑張れる社会人に”と一般論で手立てを練り出します。けれども、子どもを尊重し、本音を聴き、その子のその時の希望に合わせて焦らせないで手立てをとると、自ら動き、努力する様を見せます。不登校の間に、親や先生方が、その子の苦しさをわかろうと努め、焦らせず任せ、そして、“大切に思っている”と伝え続けると、生きるちからをつけます。

しんどさから脱け出すと、やりたいことや希望の進路が顕れ、驚くほど努力します。不登校の間に、社会で、自分を護りながら、好きな道での努力は惜しまず、自信をもって愉しく生きるちからをしっかりと培います。

### 4. 学校の先生方との協働

将来にわたって、長い人生をみすえてちからをつけられるよう、今の手立てをとるのが方針です。これは、“担任の期間に、この学校に在籍している間に登校させたい”と熱く思い、せかれる一部の先生方には理解されませんでした。受診を控えるよう助言された例もあり、よい協働で、子どもをまん中に、親、先生方とチームを組めないことも度々ありました。困りきって、教育委員会との懇談で在田教育長にご相談しましたところ、池田パトナセンター長が柔軟に方策をとって下さいました。生徒指導部との研修会が実現し、後日、先生方からも、ご意見ご提言を丁寧文書で頂戴しました。双方向の協働の一步となりそうですので、ここにご報告いたします。実践する上で、子どもと家族の了解のもと、先生方だけが来院下さる時の診察料や、学校宛には算定されない診療情報提供料など保険診療の壁が阻みます。教育と医療の協働を広く進める際の名案を学校医の皆様にもご検討いただけましたら有難いです。

## 謹 賀 新 年

平成30年 元旦

会 長	林 鐘 声
副 会 長	井 本 雅 美
専務理事	杉 本 英 造
常任理事	東 道 伸二 郎
”	大久保 秀 夫
”	山 内 英 子
”	安 野 哲 也

常任理事	川 勝 秀 一
”	西 村 康 孝
”	中 嶋 毅
監 事	清 水 忠 雄
”	長 村 吉 朗
議 長	奥 村 正 治

京都府眼科学校医会副会長 佐野 貴之

京都府耳鼻咽喉科専門医会理事 鈴木 由一